

ことねぎだより

2019年2月号 NO.141 WEB:kotokyoto.co.jp TEL:075-601-0668



先月、天皇杯を受賞した記念祝賀会を開催させていただきました。これまで弊社を支えていただき、お世話になった方々約280名の方が全国からお越し下さいました。近畿農政局長、京都府知事、京都市長はじめ、ご多忙の中出席いただき熱いエールの祝辞を賜り、多くのご来賓の方から祝福の言葉を頂戴し感謝の気持ちで溢れております。また、当日は弊社スタッフで運営させていただく機会にもなり、皆様からの期待や思いを強く感じました。会社一丸となり、これから益々精進して参ります。



今月のことねぎ

先月より、更にグッと気温が下がった京都市内の地域。今月も、畑に長く滞在した冬葱たちです。二月中旬〜下旬頃から暖くなる見込みなので、それまで味わえる旬の時季の美味しさ。しっかりと食べ応えのある葉を労わりながら丁寧

● 今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語(事)を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。



テレビニュース等で報道されました

天皇杯受賞者 皇居へ訪問の様子



1月18日、農林水産祭での受賞者として天皇后両陛下との懇談の機会をいただきました。事業説明や商品を紹介する時間があり、ちょうどその様子が映像や記事でもすることが確認でき、大変貴重な経験をさせていただいたと改めてひしひしと感じています。昨年11月の農林水産祭でいただいた天皇杯を返納し、その天皇杯を縮小して模したレプリカをいただきました。



山間地の方では雪が降り積もり、京都市内とはまた景色が異なります。朝は身体が暖まるまでが怪我の原因にもなるので気をつけているところ。

変わりゆく自然環境に合わせた農業

2月中旬を過ぎれば少し暖かくなると見込んでいますが、それまではもう暫く農人たちは寒空の下での作業。寒さがあると夏に比べて雑草や虫の発生が減る分、ねぎの生育もゆっくり。ただ、ここ近年冬場でも病害虫の発生が増えている傾向が見られます。ゆっくり、じっくり育てているねぎを守り、良い状態でお届けできるように管理することも私たちの課題。毎年、同じではないのも農業の醍醐味です。



霜や雪で増す美味しさ



九条ねぎの旬である冬。冷たい気温がなかなか外に逃げにくい京都盆地。過ごす人にとっては寒く辛い時もありますが、畑で過ごすねぎ自身は寒さから身を守ろう

として、葉を厚くし、内側のおん(めめり)を沢山出し、その現象で旬の美味しさとなり他のねぎにはない甘み・風味に繋がります。